

一般紙やテレビなどで取り上げられる機会が増え、CLTや木質バイオマス発電などを筆頭に木材に対する社会の関心も高まっている。木材利用が地球温暖化防止に寄与するものとして環境意識の高い学生の関心も高まっている。

木材業界に関心を持つてくれる学生や一般社会人が増えていることで人材採用も順調かといえばそうではなく、社会全体の人材不足から売り手市場になっていることが感じ

## 小売り電気事業へ参入

### 地産地消モードル確立目指す

日田グリーン電力

木質バイオマス事業で原料の収集、加工、発電などを総合的に

展開するモリショウ（大分県日田市、森山和浩社長）グループの日田グリーン電力（同）は4月1日から、日田市内の公共施設や法人向けに電力販売を開始する。

同グループで発電規模5700kWのグリー

ン発電大分（同、石田博社長）が発電する電力を一部購入するも

の。地域の山林未利用材を活用した電力を大分県内に供給すること

で、エネルギーの地産地消モデルの確立を目指す。同時に経営、収益の多角化も進めていく。日田グリーン電力の新電力への販売を継続していく。

は、今年1月に設立さ

れた。3月上旬、電力

小売り全面自由化に伴

い、必要となる小売り

電気事業者への登録審査を通過した。既に、

燃焼灰を活用し、水質

净化剤「メダカ君」を

開発した。今後、地元

のいちご農家へ、同発

電所から生じる排熱供

給も始める。同グル

ープでは、これらを木質

資源を活用した地域経

済などへの貢献とい

う

るりフオーム事例によ

る

新電力への販売を継

続していく。

## 情報発信の重要性

を行うケースは決して多くはない。事務所や工場、建設現場などの仕事の割合が多いだろう。

業界以外の人に木材業の理解を深めてもらうためには、業界側からの積極的な情報発信が必要だ。木材に携わる仕事の社会的な意義や使命、役割などを様々な機会にアピールしていくことの重要性を感じ

回り道かもしれないが、木の持つ良さを伝えていく活動としての木育には業界を挙げて積極的に取り組んでいく必要を感じる。

現代は価値観が多様化して、木材の価値も大きく変わってくる可能性があるが、唯一の再生可能資源として適切に管理し、使用していく循環

のサイクルを確立していくことの努力も必要だ。（エコ太郎）

く、もっと大きな可能性を秘めた環境資源として捉えることで広がりが期待できるだろう。

木材に対する価値が高まつていくことで自然と優秀な人才が集まる。それがさらに業界の発展につながることを期待したい。そのためには一般材が集まる。それがさらに業界のアピールが必要だし、理

織され、2015年度のCLT普及の取り組みについて説明した。

また、木材関連業者等が組織する岡山県CLTミナ安定供給協議会（実行主体＝岡山県森林認証材の普及状況

普及促進に向け、市町村を対象とした現場見学会や森林認証材の安定期会等にも取り組む方針だ。

CLT生産量年間3万立方メートル、原木消費量同8万6000立方メートルを計

た。16年度はCLTの普及促進に向け、市町村を対象とした現場見学会や森林認証材の安定期会等にも取り組む方針だ。

CLT普及へ牽引体制強化岡山県CLT普及促進部会

C LTの普及を図り、新たな県産材の需

要の創出と林業の成長

産業化を図ることを目

標

の居住者を対象に実

施。有効回答数は4500件。リフォーム工

の実施状況

の結果を発表した。

中間報告を行った。併

て、「不動産賃貸物件の経

年減価を考慮したボ

ー

トフオリオ・マネジメ

ントに関する研究」の

結果を発表した。

東京23区、横浜市、

さいたま市、千葉市に

住む20～50歳代の賃貸

マンション・アパート

の内容ごとに実施されれば満足感を得るが、実施されなくても不満にならない「魅力的評価」、実施すれば満足度は上がるが、実施されないと不満がたまる「一元的評価」、実施しても満足度は上がらない「魅力的評価」、実施すれば満足度は上がらない「無関心評価」に回答を分類した。

魅力的評価が高かつたのは、収納スペースの拡張工事31・9%、二重サッシャ化30・4%、システムキッチンへの取り換え26・5%で、収納・騒音・水周りに関するリフォームが高い評価を得ていると分かった。一方屋根塗装や外観塗装によるデザイン向上など、外

山県の森林資源は人工林の半分が50年生を超える状況にある。これからは伐って、使って、植えて、育てるという林業サイクルを活性化する

CLTで需要拡大を池田会長と話す

の